いうことで、教育的な効果も非常に高いものと考えております。

Q　道場の計画等はあるのか。

A　市長　残念ながら弓道場の設置計画は持っておりません。

弓道場

●人間ドックについて

Q　山武市民の人間ドック利用状況はどうなのか。それに伴うドック助成金制度はこのまま続けていってもらえるのか。

A　市民部長　平成19年度の山武市の短期人間ドック利用者数は406人です。費用額の8割を助成する形で、上限は5万円です。75歳以上の後期高齢者の方々には、医療保険者である広域連合には助成制度がないため市の単独事業として上限は3万円で、国保に加入していた方に対して助成するものです。

Q　人間ドックの利用促進をどのように図っていくのか。

A　市長　成東病院の人間ドックを、1日ドック、1泊2日ドック、さらには脳ドックというふうに整理をいたしまして、積極的に取り組んでいこうという試みをいたしております。いろいろな形でPR活動に努めていきたいと考えております。

●MRIの活用について

Q　最新型のMRIをどのような経緯で導入されたのか。

A　市長　耐用年数を過ぎたので、更新の時期を迎えたのであります。お医者さんの獲得のための戦略的な要素もございました。当時、どうしても救急を含めた山武郡市全体の医療をカバーする病院に回復させなければいけないことの中で、MRIを入れることによって研究熱心なお医者さんを招くことができるだろうという目的もその中に加味させていただいて、3テスラという性能の高いものを入れさせていただいたという経緯であります。

Q　MRIのよさを市として市民、並びに山武郡市内にどうPRを進めていくのか。

A　市長　成東病院の将来のあり方ともあわせまして、市民全体で病院を守っていく必要があろうと思いますので、できるだけ山武市の皆様方に幅広くPRできる方法というものをしっかりと考えて手を打っていきたいと思っております。

Q　人間ドックだけではなく、人間ドックプラス脳ドック、または骨ドック、あわせて受診できるように説明をしていただきたいと思うが。

A　市長　それは営業努力としてやるようにさせていただきます。

個人質問

加藤　忠勝 議員

●子育て支援について

Q　現在、各駅前商店街の空き店舗などの有効活用と地域商業の活性化を図ることから、この施設を市が借り上げ、親同士が打ち解けた雰囲気の中で語り合うことができ、同じ悩みを抱える子育て世代同士が気軽に情報交換をするなどの仲間づくりを進めることができる環境を推進するため、子育て世代の交流施設を設けてはどうか。

A　市長　今年4月に幼稚園と保育所を統合し、認定こども園を2ヶ所設置した。この認定こども園には、子育て支援センターも同時にオープンしており現在、子育て中で相談する相手がいない、あるいは孤独に陥るというような子育て母親が気軽に集える場所として活用していく。

これを踏まえ、駅前の活性化とあわせて、空き店舗を利用しての施設については、要望があれば市として取り組んでいく。

●図書整備費について

Q　昨年度の図書整備費の額とその使途はどうか。

A　総務部長　昨年度は、小学校約530万円、中学校約570万円、合計約1,100万円が交付された。その内、本の購入に予算化されたのは小学校向け81・3％の469万円、中学校向け48・4％の257万円です。

Q　学校図書館には様々な資料、情報の活用を通じ、子供たちの自ら学ぶ力や読書を通して、子供たちの豊かな人間性を育む活動の拠点としての役割がある。そこで、学校における読書推進施策があるのか。あれば、施策内容と学校図書館の充実についてどうか。

A　教育長　今、子供たちの読解力、言語力の向上が非常に叫ばれている。読書活動には力を入れて、必ず朝10分から15分、年間の目標を立て積極的に取り組んでいる。